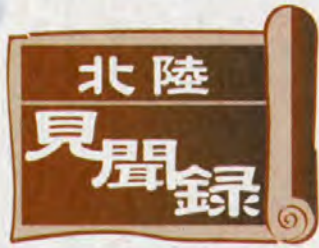


マン 伝説の戦場

84年、現在の石川県宝達志水町の「末森の合戦」は、加賀百萬人が命を落す、初春の陽光を浴びながら



い道が続き、木々に囲まれた山道は薄暗い。時折さす春の日差しは柔らかく、小鳥の鳴き声に心は和むが、落ち葉の中で不意に鳴るガ

ソゴソいう音に身がすくむ。「マムシが出るぞ」。宝達志水町文化財保護審議会委員の村上吉郎さん(63)



メモ
末森城跡 宝達志水町 竹生野の末森山にある山城。1991年に石川県指定史跡となった。のと里山海道の今浜インターチェンジから末森城跡駐車場まで、車で10分。駐車場から山頂部の本丸跡までは徒歩約20分。問い合わせは、宝達志水町企画振興課の商工観光係(0767・29・8250)。

金沢高教員Ⅱの言葉を思い出した。

伝わるころでは、15

84年9月9日、越中国の佐々成政が1万5千の大軍を引き連れて、末森城を取り囲んだ。戦は10日に始まり、多勢に無勢で落城寸前に。だが金沢城から出陣した前田利家が、11日に約2500の兵で急襲し佐々の大軍を退却させた。3日間で両軍750人ずつの死者が出たと言われる激戦。これが利家に加賀・能登・越中を支配するきっかけになったと、いまも町の誇りでもある。

賀港に出兵できるとなれば、秀吉陣営は兵力を分散せざるをえなくなり、東海で苦しむ信雄らを大いに助けたはずだという。末森城が落ちていたら、秀吉の天下はなかったと言いつつ、約20分の登山中、「天下分け目の戦い」の痕跡や城跡を示す物はほとんど見かけなかった。村上さんは末森城は合戦2年後の1586年ごろには廃城になったと考えている。「そのころには越中国を手に入れて、必要なくなったのでは」。伝説の山城はあまりにもはかなく、解体されたのか。山頂部に近づくと、平坦地が連続して現れた。「三の丸」「二の丸」「若宮丸」「本丸」の跡地という。二の丸、本丸跡に立つと、眼下に広がるのは真つ青な日本海。この海を守るために城はあったのか。穏やかなささ波を眺めながら、鎮魂の思いが去来した。

「そんなちっちゃな話じゃない。あれは天下を分けた戦だった」と村上さんは唱える。当時は羽柴秀吉と、徳川家康・織田信雄による「小牧・長久手の戦い」のさなか。家康・信雄陣営だった佐々の狙いは末森城近くにあった米出港だったと村上さんはみる。佐々が米出を拠点に海路で敦

た。 (塩谷耕吾)



上 末森城の二の丸跡、米出方面に日本海を望むⅡ石川県宝達志水町竹生野
下 高校教員の村上吉郎さんは、末森の合戦は天下分け目の戦이었다と解釈しているⅡ石川県宝達志水町正友

次回予告
次回(11日)は、福井県若狭、美浜両町にまたがる恋人の聖地「レインボーライン山頂公園」を取り上げます。今後、紹介を希望するテーマがありましたら、朝日新聞金沢総局へ郵便(〒920・0981

金沢市片町1の1の30) かメール(kanazawa@asahi.com)でお寄せください。採用時にご連絡します。この企画は、朝日新聞販売所(ASA)と協力してつくっています。